

帰宅困難者対策に関する検討会議 幹事会（第3回） 議事概要について

1 開催概要

日 時：令和3年10月26日（火）13:00～14:15

場 所：オンライン開催

参加者：廣井座長、石川（永）委員、大佛委員、清水委員、富川委員、原委員
※漆畑委員、石川（篤）委員は都合により欠席

2 議題

帰宅困難者対策に関する検討会議報告書（素案）について

3 議事要旨

事務局から議題について説明した上で、各委員より下記の通り意見が出された。

- 報告書の全体構成は問題ないと思う。
- 災害は不確定要素が多く、様々な状況が考えられることから、シナリオベースで検討することが重要である。いろいろなシナリオを組み合わせるシミュレーションを行った結果、一斉帰宅による危険な混雑を招かないためには、きめ細かな対策が必要だということがあった。
- きめ細かいルールを周知する方法が難しい。企業等に対して、どう伝えるかが重要。わかりやすいツールが必要だと思う。
- 災害情報は発信の仕方が重要。特に要配慮者や情報弱者に対しての発信方法はよく検討すべきである。また一人一人が情報を受け取れるようにするという点では、発災時のバッテリー（充電器）の確保も大切である。
- 企業との連携はこれから大切になっていく。飲食店等を巻き込んで、横のつながりを使った取組も有効であると思う。
- 企業が社会的貢献という面でアピールできるようにするとよいのではないか。WEB等を用いた企業向けの防災研修なども考えられる。
- 企業の自主的な取組みだけでは、企業の負担が大きく、対応にも限界がでてしまうので、企業に対する後押しをお願いしたい。
- 10月7日に発生した地震をどう整理するか。首都直下型地震と今回の地震とで、求められる対策は異なるのではないかと思う。